

製品名: CLK2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09049**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	CLK2
別名	CLK2; Dual specificity protein kinase CLK2; CDC-like kinase 2
遺伝子 ID	1196.0
SwissProt ID	P49760
免疫原	抗血清はヒト CLK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

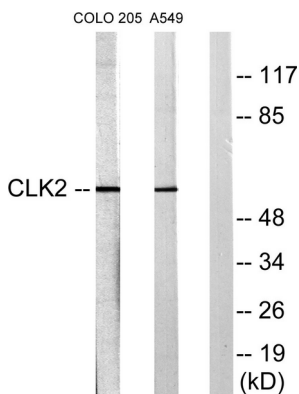
背景

CDC 様キナーゼ 2 (CLK2) Homo sapiens この遺伝子は、セリン/スレオニンおよびチロシン含有基質をリン酸化するための二重特異性タンパク質キナーゼをコードしています。このタンパク質の活性は、スプライセオソーム複合体のセリンおよびアルギニンに富

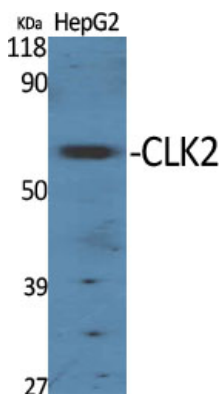
む (SR) タンパク質を制御し、選択的転写スプライシングに影響を及ぼします。この遺伝子座と 19 番染色体の PAFAH1B3 (血小板活性化因子アセチルヒドロラーゼ 1b、触媒サブユニット 3 (29kDa)) 遺伝子との間で染色体転座が特徴付けられており、融合タンパク質が生成されます。この遺伝子は、CLK2 という別名を共有しながらも、テロメア長の制御に関与するタンパク質をコードする Telo2 遺伝子 (GeneID:9894) とは異なることに注意してください。この遺伝子には、7 番染色体に疑似遺伝子があります。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014 年 6 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: スプライセオソーム複合体のセリンおよびアルギニンリッチ (SR) タンパク質をリン酸化します。これは、SR タンパク質が RNA スプライシングを制御することを可能にする制御機構ネットワークの構成要素である可能性があります。セリン、スレオニン、チロシンをリン酸化します。PTM: 3 種類の残基すべてを自己リン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。Lammer サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、

研究分野

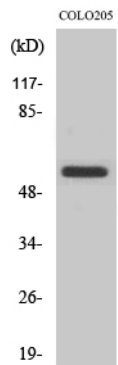
画像データ



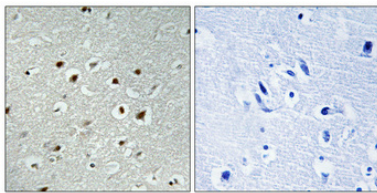
CLK2 抗体を用いた COLO205 細胞および A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



CLK2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



CLK2 ポリクローナル抗体を使用した A549 細胞のウエスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。